

01

11月 2020

神の恵みは流すとまたそれまで以上に 恵まれます。 — 柿の季節に思うこと

by NCM2 CHOIR

全4page



去年は驚されるのではないかと思いますほどあちこちから、柿をいただきました。日本にいたら、こんなにいただくことはないのではないのでしょうか。でも今年はどこの家でも生り年ではないという情報で、去年、柿を持って来てくれた友人の一人からは、20個しか、実がついていないというような報告でした。

期待していなかったのに、今年もまず、親しい友人から2週間ごとに20個ぐらいずつ、いただきました。まだ青いけれど、鳥に取られないうちに取ってしまったと言うのです。富有柿で美味しいものでした。きっと彼女は自分の口に入れなくて、友人達に配っているのでしょう。

それをまだ食べ終わらないうちに、先週北カリフォルニアの友人からすてきな長い包装のパッケージが届きました。何かと開いたら、こんなに大きくて見事な柿が3個、宝石のように輝いて入っていました。



聞けば、送ってくれた友人は彼女の知人宅に行って、私のためにもらってきてくれたと言うのです。その柿の木の持ち主はこんな見事な柿があるのに、好きではないのだそうです。郵送料が10ドル50セントかかっていました。彼女の愛を感じながら、もったいなくてしばらく飾っておきました。



そして今週、電話がありました。「柿をいっぱいもらったから取りにおいで」と。半ば強制的な電話です。近所なので、すぐに馳せ参じて驚きました。私を待っていたのは50個くらいの柿が入った袋でした。その友人も手元に同じくらいの量の柿をもっている、あと一袋を見せてくれました。「一人暮らしで食べ切れないから助けてくれ」と言うのです。大喜びでもらいました。

なんでも福音と同じで、シェアすることが好きな私ですが、以前は柿だけはシェアできませんでした。けれど、水が流れないと腐るように恵みは流さないと腐ってしまう、というメッセージを思い出してからは他の人たちとシェアするようになりました。そして不思議にそうするとまた他から入って来ることを経験済みです。

でも今年は自粛生活で、なるべく人と、会わないようにしていることを理由に、しめしめ、我が家だけで食べることができるとほくそ笑みました。というところに、電話です。持って行ってくれと言った柿をくれた友人からです。

「悪いけど、少し昨日の柿を、返してくれる？ 実は持って来てくれた人からの伝言をちゃんと聞かなかったものだから。あれは、〇〇さんにあげてくれというものだったの。もちろん私がもらった分からも返すけど、あなたも、あなたの取り分を取って少し返して」

「いいわよ。恵みは流さないと腐ってしまうし、また新しい恵みが与えられて、どこからかまた柿が来るのを知っているから」

「神の恵みの」賛美が響き、返しに行きました。きっとまた「柿があるから、持って行くね」という電話が誰からか、かかってくることでしょう。神様のなさることは最善ですから。

竹下弘美



折尾クリスチャンチャーチ

住所 〒807-0873

福岡県北九州市八幡西区藤原 2-12-6

メール oriochurch@outlook.jp

電話&FAX 093-692-9200 (9:00~13:00) URL <http://www.oriochristianchurch.net>